

奨励賞を受賞して

東京大学大学院新領域創成科学研究科 加藤和明

この度は、シクロデキストリン学会奨励賞という名誉ある賞をいただき、大変光栄に存じます。学会長の高橋圭子先生をはじめ、ご選出いただきました諸先生方に厚くお礼申し上げます。また、本賞へご推薦いただきました伊藤耕三先生と早下隆士先生に心より感謝申し上げます。

今回の受賞対象となりました「シクロデキストリンを基盤としたポリロタキサン材料の開発」は、2007年から2017年まで10年間お世話になりました伊藤耕三先生のもとで行った研究であります。私とシクロデキストリンとの出会いは大学院生時代でした。私は、大阪大学大学院工学研究科の宮田幹二先生のもとで5年間ご指導をいただき2004年3月に学位を取得いたしました。第8代シクロデキストリン学会会長である原田明先生と宮田先生が親しいこともあり、当時原田先生が主催された研究会や学会に何度も送り出させていただきました。当時私は包接結晶中における分子認識を研究しておりましたので、水溶液中での多様な分子認識を示すシクロデキストリンはまるで酵素のようだと感激したのを覚えています。学位取得後、産総研でシクロデキストリンを用いたナノバイオを一年間研究し、その後フンボルト奨学生としてドイツのザールラント大学のHans-Jörg Schneider教授の研究室で研究を始めました。実はSchneider教授のもとでは、溶液中での「正統派」分子認識を学ぶつもりでしたが、私が彼の最後のポスドクということもあってか、ケモメカニカルゲルという「色物」（当時の私にはそう思えた）を研究することになってしまいました。しかし、そこでの二年間が転機となり、研究成果が出るとともに低分子から高分子材料に興味シフトしていきました。そして、ゲルを研究していたことが幸いして、伊藤耕三先生のところにたどり着くことができました。伊藤研で環動ゲルを研究し始めてから知ったのですが、Schneider研のすぐ隣は、2014年の国際シクロデキストリンシンポジウムのオーガナイザーのGerhard Wenz教授の研究室だったのです。こうして思い返してみると、伊藤研に来るずっと前から私はシクロデキストリンに包囲、包接されていたようです。

伊藤研でののはじめの2年ぐらいは大した成果が出ずに苦しみましたが、伊藤先生からは長い目を見ていただいたおかげで、その後の研究の基盤となるポリロタキサン合成法

をじっくりと研究することができました。そして、企業との共同研究や一流の研究者が集まるプロジェクトにも関わらせていただく中で、これまでの私の研究スタイルに重要な変化を与えていただきました。本研究を遂行するにあたり、伊藤先生をはじめ伊藤研のスタッフの皆様や多くの先生方にご指導いただきましたこと、また学生の皆様にも多大なご協力をいただいたことに、この場を借りて心より感謝申し上げます。また、歴代会長の原田明先生、池田宰先生、高橋圭子先生をはじめ、シクロデキストリン学会の先生方からはシンポジウムでいつもお声掛けくださり、研究を遂行する上で大変励みになりました。心より感謝申し上げます。本受賞に恥じぬよう今後も日々精進してまいります。